

○全日本馬場馬術大会 Part II

6月7日～9日、御殿場で第76回全日本馬場馬術大会 Part II が開催されました。今大会には7頭の遠野産馬が出場し、内国産馬5課目クラスでウィルスタッドの齋藤裕己選手とヴァーリン・レオ(セ710)が優勝しました。



5課目クラス優勝 齋藤裕己選手&ヴァーリン・レオ

ヴァーリン・レオは附馬牛町の井手亮悦氏の厩舎で生まれた10歳馬(父ヴァーリントンW、母スタートマリー)。齋藤裕己選手とのコンビで5月に開催された指導者選手権に続いての優勝となりました。またこの大会の3課目クラスにはドレサージュ・ステイブル・テルイから弟にあたるラバノレオン(父ラバノ)が出場し、兄弟そろっての全日本参戦となりました。

写真右:当歳時のヴァーリン・レオ 2014年6月荒川高原にて



遠野馬通信

馬産地遠野とホースマンを結ぶ
情報誌

No.92

2024年7月1日

○競技会の遠野馬たち



3課目 フローラルダンサー(牝8)

飯多亮選手(ウイッシュホースコミュニケーションズ)



4課目 ココライアン(セ8)

齋藤裕己選手(ウィルスタッド)



5課目 ラインハルト(セ12)

関戸大介選手(相模原乗馬クラブ)



5課目 ティニータイニー(セ7)

浅川晴央選手(静岡乗馬クラブ)



3課目 ラバノレオン(セ6)

照井駿介選手(ドレサージュ・ステイブル・テルイ)



内国産選手権セ7ジョージ賞典 リパティエ(セ12)

市川順子選手(愛馬友の会)

本大会の3課目クラスで優勝したポロノチウウィル(セ7 齋藤裕己選手・ウィルスタッド)は、齋藤さんがご自身のクラブで生産した埼玉県生まれの内国産馬で、子馬時代は遠野・荒川高原で過ごしたそうです。祝!



*競技会の結果は、日本馬術連盟のHPから御覧ください。

https://www.equitation-japan.com/updata/File/2024/20240609/AJDP2_20240609_result_all.pdf